

JAL 争議解決早く

名古屋駅前で宣伝

ベテラン戻し安全保て



道行く人に訴え、ビラを手渡す参加者＝23日、名古屋市中村区

え、安全第一のJAL 再建を目指し、名古屋出身の当事者たちもつながりながら活動してきました。

22年、争議をたたかってきた二つの労組が「業務委託による職務機会の提供」などを受け入れ争議終結。JAL 被解雇者労働組合（JHU）は原職復帰や争議の解決などを求め、たたかいを継続しています。「愛知の会」は「最後までたたかう

人がいる限り支える」と月1回の宣伝を続けています。

参加者らは「不誠実な対応で争議を長引かせているJALの企業体質は社会的責任を放棄している」、「争議開始からすでに13年。当事者にとって速やかな解決が求められる」などとスピーチ。

「愛知の会」事務局の谷藤賢治さんは、2日に羽田空港で起きた

JAL旅客機と海上保安庁の航空機の衝突事故をあげ、乗客全員を救出できたのは現場の人たちが培ってきた安全対策があるからと指摘。「39年前の御巣鷹の尾根での事故を受けて安全対策づくりが大ききく寄与してきた労働者。こうしたベテランのパイロットやCAを見るも無残に切ってしまう体質では安全は保てない」と語りました。

「不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える愛知の会」は23日夜、寒風が吹く中、多くの通勤客などが行き交う名古屋駅前で、日

本航空（JAL）解雇争議の一日も早い全面解決を求めて宣伝しました。

「愛知の会」は2012年、不当解雇され

たパイロットや客室乗務員（CA）を支援するため、県内の運輸・交通関係の労働組合によって結成されました。航空労働者を支